



築50年の団地を貸し農園やカフェなども併設し、過ごし方の提案も含めリノベーションを行った「ホシノタニ団地」。写真提供/高岡弘。

ちません。建物の老朽化も進み、建て直すのも壊すのもお金がかかる。周りを見渡せば、古い物件や空間の活用方法で困っている事例が散見されていました。これからは、貸すだけでなく自分たちで建物を活用する方法まで考えないと立ち行かないと思いました」

まずは、自分の日常を再発見する

1998年に仲間と株式会社ブルースタジオを設立、リノベーション事業を立ち上げた。

「当初は、『Re innovation』と言って、今あるものや状況を再発見するという意味で使っていました。大島さんはリノベーションとは、建物を改装するだけでなく、場の価値を再構築するものだという。」

「古くからある建物は空間としての価値以外にも、歴史的価値、地理的価値、地域のつながりなど人の価値とさまざまな資源で成り立っています。それを再構築して新たな価値を見いだすことがリノベーションの本質です。私は、リノベーションの相談を受けた時に最初に『自分の日常を再発見しましょう』と伝えます。環境を変えて、あれを作りたい、というのは『ないものねだり』。新しいことをやるには、時間もお金もかか

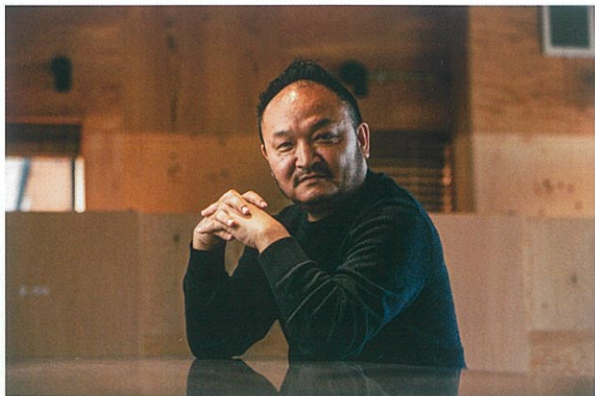
す。今の時代は独自性を見つけて延ばすことが重要。先人たちが大切にしていたことは何なのかを再発見することで、そこだけにある価値を知ることができます」

リノベーションは、考えているより社会的意義が大きいようだ。「建築家という図面を描く人というイメージでしょうか。でも、建築家は、多角的な視点を持っていないと話になりません。なぜなら、暮らしを設計しているからです。リノベーションも同じで、建物を建て替えれば良いというわけではない。用途を考え、新しい価値とビジョンを考えることも私たち建築家の仕事です」

例えば、大島さんたちが企画、設計、運営も手がけた「ユクサおおすすめ海の学校」。鹿児島県錦江湾の突端にある鹿屋市立菅原小学校をリノベーション、体験を通して学ぶ体験型宿泊施設だ。長く愛されてきた小学校を活用したいという地域の人々の協力で、現地ですることができる体験を提供している。「すばらしいロケーションです

大島 芳彦

おおしま・よしひこ
1970年東京生まれ。株式会社ブルースタジオ専務取締役。[Re innovation]をテーマに建築設計、不動産商品企画コンサルティングを展開。活動は不動産流通(仲介・管理)、マーケティング、ブランディングなど多岐にわたる。団地再生プロジェクト「ホシノタニ団地」で2016年度グッドデザイン金賞(経産大臣賞)受賞など近年も受賞作多数。



が、観光客が大勢来る場所ではありません。でも、愛着のある小学校を何とかしたいという地域の人々の思いと独自の体験コンテンツのおかげで宿泊者は耐えませんが、大島さんたちの価値の再発見によって、新しい空間が生まれ、地域が活性化されていく。

Special interview

リノベーションとは建物だけでなく、その場所の価値を再構築すること。

数々のリノベーション物件を手がける建築家の大島芳彦さん。建物だけでなく、その“場”にあるさまざまな価値を再構築してきた。大島さんの考えるリノベーションについて伺った。

text: Yoko Yoshida



1.120年の歴史を持つ鹿屋市立菅原小学校をリノベーションした「ユクサおおすすめ海の学校」。2.元は教室だった部屋はすべてオーシャンビュー。3.地域の方による郷土料理作りや釣り、キャンプなど体験アクティビティも豊富だ。

地

域に愛される小学校や築50年の団地などをリノベーションし、新たな価値を生み出している建築家の大島芳彦さん。

大島さんがリノベーションにかかわることになったきっかけは、不動産業を営む実家の存在が大きい。「父の時代は、空間需要が高まり建物を作れば、利益が生まれました。しかし、私たちの代は、ただ空間を貸すだけでは商売が成り立

